

令和4年度事業報告について

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響による厳しい経営状況の立て直しを図り積極的に各事業に取り組んだ。また第2次中期事業計画の最終年度としてこれまで実施した各事業について検証・分析し今後安定した事業運営、財務基盤を維持していくため、新たに第3次中期事業計画（令和5年～令和9年）を策定した。

がん検診事業において、受診者総数は令和4年度158,981人、対前年比292人増(0.2%増)であり、コロナ以前の令和元年度と比較すると90.0%の回復となった。

内訳として集団検診においては、受診者数は79,593人、対前年比176人増(0.2%増)であり、令和元年度比較では76.8%の回復にとどまった。個別検診(妊婦検診含)においては、県医師会や医療機関の協力により受診者数79,388人、対前年比116人増(0.1%増)であり令和元年度比較で108.8%となった。

ふくい健康の森管理運営事業においては、県民健康センターの健康診査受診数は5,800人と対前年比243人増(4.4%増)、けんこうスポーツセンター・スポーツ公園の利用者数は203,114人と対前年比15,629人増(8.3%増)、生きがい交流センターの利用者数は99,034人と対前年比12,548人増(14.5%増)であった。

県民健康センターでは、徹底した感染予防対策による安心安全なサービスの提供に努め受診者数は過去最高であった前年度の受診者数からさらに増加となった。また、教室事業においては、新たに出前講座や女性向けの新規教室イベント等を実施するとともに発信の強化により受講者確保に努めた。

けんこうスポーツセンターでは、利用者ニーズに合わせた教室事業を展開し利用者確保に努めた。生きがい交流センターでは、若い世代の利用を促進させるため教室内容の刷新を図り、キッズスペースの設置等により利用者確保に努めた。しかし施設老朽化等による影響もあり厳しい収支状況となった。

「心をひとつに ふくい応援」基金運用事業については、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策の最前線で働く医療従事者等へ、勤務環境の改善等のため、県と協力し基金の配分等を行った。

1. 生活習慣病予防・健康管理に関する事業

がん対策基本法に基づき、県民全体のがん予防を推進するため、検診車の派遣等によるがん検診、県民健康センターでのがん検診を含めた健康診査事業を行い、一元的管理による効果的ながん対策に取り組むとともに、必要な情報の提供等を行った。

また、新型コロナウイルス感染症患者の治療等に当たる医療従事者等の環境改善等および感染症対策の充実のため、福井県と連携して、県民等からの寄付からなる基金を造成し、それを原資に医療従事者等に助成を行った。

(1) がん検診事業

① 精度管理の維持・向上

がん検診の信頼性・実効性を担保する精度管理の重要性を踏まえ、その一層の向上に努めた。また、受診者が集団検診から個別検診へ移行傾向にあることから、業務全体の効率化を行った。

- ・胃がん検診7号車のI・I（イメージインテンシファイヤー）交換
- ・乳がん検診読影デジタル化に伴う外部読影施設のシステム設定（1施設）
- ・大腸がん症例報告書入力システムの改修
- ・検診システムによる業務効率化(次期システム更新に向けて検討)

② 受診者確保事業

小規模事業所を対象とする検診受診の啓発や、県・市町等と連携した受診勧奨により受診確保に努めた。また、集団検診の受診者が安心安全に受診できるよう検診会場での感染症対策を行い、受診者確保に努めた。

受診者数：1,223人（令和3年度 2,188人）

- ・市町と事業所連携の広域検診(子宮がん・乳がん)、小規模事業所検診(大腸がん・子宮がん他)
- ・県や市町と協力した休日レディース検診
- ・個別医療機関や市町等へ受診促進のためのポスター配布

○がん検診実施状況

区分	令和4年度(人)			令和3年度(人)			比較増減(人)			比較増減(%)			
	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	集団	個別	妊婦	
胃がん	8,029	10,078	—	8,030	9,234	—	△1	844	—	0.0%	9.1%	—	
子宮がん	8,781	14,805	4,598	8,812	16,234	4,950	△31	△1,429	△352	△0.4%	△8.8%	△7.1%	
乳がん	9,900	9,597	—	10,692	10,323	—	△792	△726	—	△7.4%	△7.0%	—	
肺がん	X線	24,353	21,231	—	23,464	20,190	—	889	1,041	—	3.8%	5.2%	—
	喀痰	267	125	—	313	136	—	△46	△11	—	△14.7%	△8.1%	—
大腸がん	28,263	18,954	—	28,106	18,205	—	157	749	—	0.6%	4.1%	—	
計	79,593	74,790	4,598	79,417	74,322	4,950	176	468	△352	0.2%	0.6%	△7.1%	
合計	158,981			158,689			292			0.2%			

(2) がん検診受診勧奨事業

市町からがん検診受診勧奨業務を受託し、検診未受診者を対象に勧奨を行い、受診率向上に協力した。また、医療機関からの受診報告をもとに、市町と連携し精密検査未受診勧奨も併せて行った。

勧奨件数 : 4,981人(令和3年度 6,326人)
実施市町数 : 12市町(令和3年度 13市町)

(3) 健康情報発信事業

がんをはじめとする健康に関する正しい情報の発信・普及啓発に努めた。また、福井県の健康情報発信の拠点を目指し、発信情報の拡大、充実を行い、協会の認知度向上に努めた。

・がんネットにおいて検診に関するコラムや医療機関情報等の発信

コラム掲載 : 9回(令和3年度 9回)

・福井商工会議所会報誌「健康ひとくちメモ」への寄稿(保健師・放射線技師等)

掲載回数 : 6回(令和3年度 6回)

(4) 健康診査事業(県民健康センター)

健診の精度管理、感染症対策を含めた施設の安全管理に努め、健康診査を実施した。また、受診者意見や要望を積極的に把握し、健診内容の充実や利便性向上を図り、利用者増に努めた。

① 受診者確保事業

従来の大口顧客(地方職員共済組合、公立学校共済組合等)との関係強化や新規事業所等への渉外活動の強化を図り、リピーターの確保や新規受診者獲得に努めた。また、アンケート調査による受診者の意見要望を聴取し、受診環境等の改善に取り組んだ。

・女性の健康支援を目的とした「女性の日」の周知

・乳房超音波検査のオプション開始(女性の日限定)

② 利用者の利便性向上

受診者の要望に応じ、健診体制の整備に努め利便性の向上に努めた。

・アンケート調査による受診者の意見要望の反映と業務改善

・館内健診案内看板のリニューアル

○健康診査実施状況

コース別	令和4年度(人)	令和3年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
総合	1,304	1,359	△55	△4.0%
一般健診	3,953	3,720	233	6.3%
特定健診	19	25	△6	△24.0%
特定保健指導	218	115	103	89.6%
その他の健診	306	338	△32	△9.5%
計	5,800	5,557	243	4.4%

(5) 無料健康相談・無料健康講座事業(県民健康センター)

一般県民を対象に県民健康センターや生きがい交流センターにおいて、健康・ストレス・病気等に関する講座や相談を実施した。

利用人数 : 352人 (令和3年度 195人)

(6) 啓発・キャンペーン事業

9月の「がん征圧月間」、10月の「ピンクリボン月間」をがん検診・対策集中PR月間とし、県、市町、協会、民間が講演、イベントなどを集中的、連続的に展開するとともに、県を通じこれらの取組みを一元的に広報、PRした。

① がん征圧月間(9/1～30)の取組み

がん征圧月間ポスター等の配布、マスコミを利用した広告、広報活動等を実施した。

② 関係機関、団体等との連携

県やピンクリボンの会(ピンクリボンキャンペーン)と協力し啓発活動を行った。

・乳がん検診普及啓発ライトアップ(アオッサ 10/1、2)

(協力:福井テレビジョン放送(株)、福井高等学校デザイン分野 等)

③ 日本対がん協会グループ福井県支部としての活動

リレー・フォー・ライフ・ジャパンふくいは、一堂に会してのウォークイベントを3年ぶりに開催し、募金活動を通じがん患者支援やがん情報の発信等を行った。(ふくい健康の森400mトラック 10/15)

参加人数 : 330人

寄付額 : 773,382円(令和3年度 199,121円)

④ 結核予防週間(9/24～30)の取組み(結核予防会福井県支部としての活動)

啓発ブースの設置(嶺北:県庁1Fホール、嶺南:若狭図書学習センター)、結核予防ポスター等の配布、マスコミを利用した広報等による啓発活動を実施した。

寄付額 : 2,140,400円(令和3年度 2,300,400円)

⑤ 講演会・研修会の開催

市町や企業等、各種団体が主催する講演会に講師派遣をした。

医師講演 : 9回 (令和3年度 5回)

⑥ ふくいSDGsパートナーへの登録及び活動

県民の健康づくりを支援するため、SDGsパートナーへ登録し活動に取り組んだ。

活動：上記②、③事業および“子どもたちへのスポーツ教室の提供”



(7) 「心をひとつに ふくい応援」基金運用事業

新型コロナウイルス感染症対策の最前線で働く医療従事者等の勤務環境の改善等のため、昨年度に引き続き福井県と連携して県民等から寄付を募り、基金配分委員会にて決定し配分先へ助成した。

基金総額：4,454,446円（令和3年度 27,574,866円）

配分実績：24機関 24,810,000円

（令和3年度 16機関 40,000,000円）

2. 健康づくり・体力づくり・生きがいくりに推進事業

「ふくい健康の森」の施設を活かし、県民の健康づくり・体力づくり・生きがいくりを一体的に推進するための各種教室の開催や施設の提供を行った。県民健康センターでは他の施設やイベントを活用した教室を、スポーツセンター・生きがい交流センターでは利便性だけではなく、個々の状況に応じたサービス提供に努めるとともに、各施設の職員が一体となった広報営業活動を行うなど、総合的な利用者増に取り組んだ。

(1) 健康増進各種教室・運動障害回復訓練事業（県民健康センター）

生涯を通じて積極的な健康づくりのために、運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立を目指して栄養教室や出前講座、女性に向けた教室イベント等各種教室を実施した。また、作業療法士による地域リハビリテーション事業（地域支援事業）の運動障害回復訓練事業を実施した。

健康増進各種教室利用人数：173人（令和3年度 58人）

運動障害回復訓練利用人数：3,532人（令和3年度 2,884人）

(2) 運動プログラム指導事業・体力づくり教室事業（けんこうスポーツセンター）

個人の健康づくりへの支援として、トレーニングジムおよび温水プールでは、利用者個々の運動目的に応じたプログラム発行や3か月減量講座の内容を明確な達成目標を設定するなど、きめ細かで質の高いアドバイスを行った。また、子ども向け教室など対象者を絞った講座の提供やメンタルヘルスの特別講座の開催など、利用者ニーズの把握による内容更新等に努め類似施設との差別化を図った。

運動プログラム指導 利用人数：6,102人（令和3年度 6,078人）

体力づくり教室ほか 利用人数：53,398人（令和3年度 49,331人）

(3) 生きがいつくり推進事業(生きがい交流センター)

世代間の交流や趣味を広げ、楽しみながら生きがいつくりに取り組めるよう教室やイベントを開催した。また、若い世代を対象とした親子向けのキッズスペースやスケートボード教室を開催し広く県民への利用促進に努めた。

文化講座 ほか 利用人数 : 2, 842人 (令和3年度 1, 320人)

(4) 施設の提供事業

県民の健康づくりの総合施設として、各施設において健康づくり・体力づくり・生きがいつくりの機会と場所を提供した。また、安全安心な施設の管理運営に努めた。

① 各施設運営の改善

利用者の意見を反映した環境づくりに努め、利用者に快適な施設環境の提供に努めた。また、スポーツセンター・生きがい交流センターの入館料について、令和元年度から導入している学生割引の継続により若年層の利用増を図るとともに、利用頻度の低い施設を臨時教室などで有効に活用し、年間を通した利用者獲得に努めた。

② 施設の提供

会議室等の施設貸出において、利用モデルプランとともに周知活動に努めた。特にスポーツ公園のスケートパークなどオリンピック種目で注目されている競技施設を活かし、健康の森の認知度向上と利用者増加に努めた。また、障がい者および高齢者の方が施設を使いやすいように設置物等の変更を実施し、利便性に努めた。

(県民健康センター)

健康増進を目的とした会議室や研修室等の貸出を行った。

○施設利用実績状況

	令和4年度(人)	令和3年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
施設利用	152	352	△200	△56.8

(けんこうスポーツセンター)

対策を徹底したうえで規制を段階的に緩和し、温水プールやトレーニングジム、テニスコート等の屋内外の各種運動施設など、安心して楽しく運動が実践できる場を提供した。

特に、スケートパークについては、県に施設の安全対策の要請を継続するとともに、冬場の屋内教室開催などによる利用者の温泉への誘導策などを福井県スケートボード協会と実施した。また、夏季繁忙期の日祝日の営業時間延長継続とプール入場制限の緩和および入館料の学生割引を継続し利用者増加に努めた。

○施設利用実績状況

区 分	令和4年度(人)	令和3年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
スポーツセンター・温水プール	148,980	138,864	10,116	7.3
スポーツ公園	54,134	48,621	5,513	11.3
計	203,114	187,485	15,629	8.3

(生きがい交流センター「健康の森温泉」)

「健康の森温泉」として、コンサート等の催事を通じ温泉としての魅力を高めたり、公園来場者の誘客や、若い世代を対象とした子どもと親が楽しむことが出来るキッズスペースおよびスケートボード教室を開催することにより利用者確保に努めた。

○施設利用実績状況

区 分	令和4年度(人)	令和3年度(人)	比較増減(人)	比較増減(%)
健康の森温泉	95,611	81,757	13,854	16.9
交流ホール等	3,423	4,729	△1,306	△27.6
計	99,034	86,486	12,548	14.5

3. 健康管理・健康づくりに関する広報、調査研究事業

がん検診を含めた生活習慣病予防・健康管理に関する事業と健康づくり・体力づくり・生きがいづくり推進事業に関する事業等、協会の事業全体の広報や調査研究を行った。

(1) 研究・研修事業

① 研究会等への参加および開催

がん検診に関する読影精度の向上など健康管理・健康づくりの技術の進歩を図るため、県医師会や県と連携し各部位別研究会等を開催した。また、学会等へ参加し研究成果を発表した。

参加回数 : 26回 (令和3年度 23回)

② 研究事業への支援・協力

がん検診を県下一元的に実施していることを生かし、各研究への協力を行った。

- ・ 「子宮頸がん検診の未受診者に対する自己採取HPV検査の受診率向上効果の検証」(福井大学産科婦人科)にかかるとの検査の実施
- ・ 特定臨床研究「福井県の対策型検診に参加した27歳～45歳で細胞診正常であった女性にHPV4価ワクチン(ガーダシル®)を接種することによるHPV16型とHPV18型の持続感染予防効果を評価する2群間比較試験」(福井大学産科婦人科)における検査とデータ処理の実施

(2) 広報活動

健康管理協会、ふくい健康の森の広報の強化

営業広報推進チームを主とし、がん検診事業、健康の森管理運営事業を取り纏め、全職員が一体となって戦略的に取り組んだ。健康の森通信については、掲載内容を見直し紙面を効果的に活用し、LINE による定期的配信や Instagram を活用した若者をはじめとした幅広い層への効率的な情報発信に努めるなど、各施設の特性に合わせた P R 活動を実施し、効果のある広報を行った。

- ・「健康の森通信」の内容刷新、LINE や Instagram など SNS による定期的な情報配信
- ・各関係団体や競技機関への会場利用誘致（各テニス団体、スケートボード協会など）
- ・県観光連盟と連携し、県内外への P R 活動を実施
- ・直接訪問による営業活動を実施
- ・利用者ニーズに応じたホームページ掲載方法の改善
- ・研修会参加による SNS 活用の知識向上

4. 事業報告附属明細書

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 3 4 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項：なし